



今回は、一人一台タブレットの導入に向けた職員研修について報告します。

岐阜県教育委員会は令和2年度内に、県立学校に生徒一人一台ずつタブレット端末を整備する予定です。これについて、本校ではテスト期間の午後を利用し、職員研修を行いました。

## ◇ ICT活用研修を行いました

日時： 令和2年11月24日(火)

13:30~14:30

対象： 関高校教職員

テーマ： 「一人一台端末の環境整備の流れの確認と、  
学習支援ソフトMetaMoJiの活用」



研修会の始めに、今後の端末環境整備の流れを確認しました。既に先日19日(木)には、1~3年生の各階にタブレット端末の保管庫が搬入されています。12月の内に、まずは3年生用の端末が配備され、活用できるようになる予定です。1,2年生用の端末は、1月頃を予定しています。11月27日にはタブレットの利用方法について、生徒と保護者のみなさんへ文書をお渡しする予定です。

研修の後半は、学習支援ソフト「MetaMoJi Classroom」の活用研修を行いました。このソフトを利用することで、小テストを実施したり、実験の記録を写真に残してレポートに使用したり、直接顔を突き合わせなくてもグループ学習が行えたりします。事前に学年代表として数名の教員が岐阜県教育委員会主催の研修に参加し、このソフトでできることや、活用方法について把握してきましたので、今回の研修は、それを校内の教員に周知する校内研修となりました。

そもそもこのような事業が行われているのは、センター試験から大学入学共通テストへの変化に代表されるような、社会で求められる能力の変化が根底にあります。グローバル化の進展や人工知能技術をはじめとする技術革新などに伴い、社会が急速に、かつ大きく変革しており、予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てることが必要となります。このようなコンピュータが活用される社会の中では「人間として」何ができるかが大切になります。大学入試センターによる共通テストの趣旨説明では、テストの役割を果たすために、『平成21年告示高等学校学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視した問題作成を行います。』とあります。

このような時代背景に加えて、様々な交流が制限されるコロナ禍のなかで、これらの能力を育むために、生徒一人一台タブレット端末と学習支援ソフトの導入が行われます。授業に取り入れるには、授業展開や指導計画の見直しと、教員のスキルアップも必要となります。今後も関高校の職員は、このような職場研修や教員間の情報交換によって、より良い教育ができるよう、研鑽を積んでいきます。